

論 文

自閉症児のきょうだい親に望む心理的サポートに関する一考察 —親による心理的サポートときょうだいの生活充実感の関連—

永田 悠¹・古賀靖之²・平川忠敏³・一門恵子⁴

(¹*熊本市発達障がい者支援センター, ^{2,3}西九州大学, ⁴九州ルーテル学院大学)

(平成28年1月29日受理)

Consideration on parental mental support for typical developing siblings of children with autism spectrum disorder —correlation parental mental support and sense of emotional well-being—

Yu NAGATA¹, Yasuyuki KOGA², Tadatoshi HIRAKAWA³ and Keiko ICHIKADO⁴

(¹*Kumamoto City Developmental Disability Support Center*, ^{2,3}
Nishikyushu University, ⁴*Kyusyu Lutheran College*)

(Accepted January 29, 2016)

Abstract

The purpose of this study was examine support for Typical Developing Siblings (TDS) of children with ASD. A questionnaire survey was conducted using the author's original Parental Mental Support Scale (PMSS) and Sense of Emotional Well-being Scale (SEWS: Takahashi and Aoki, 2010) to 44 TDS (8-28 years old). The results of correlation analysis and single regression analysis of PMSS and SEWS was that the mothers' PMSS score affected SEWS score of TDS ($r=.300, p<.05$). A significant difference was observed between the fathers' and mothers' PMSS score ($t=4.50, df=43, p<.01$). It was suggested that parental mental support for TDS of children with ASD was an important factor to strengthen their sense of emotional well-being.

Key words : ASD (Autism Spectrum Disorder) 自閉症
TDS (Typical Developing Siblings) 定型発達きょうだい
SEWS (Sense of Emotional Well-being Scale) 生活充実感尺度
PMSS (Parental Mental Support Scale) 親の心理的サポート尺度

1. 問題と目的

一般的に障がい児のいる家庭の定型発達の兄弟姉妹（以後、「きょうだい」）は、障がい児の存在によるさまざまな影響を受けていることが明らかにされ、障がい児からのきょうだいへの影響は、深刻な問題であるとの報告がなされている^{8,15)}。それに伴い、きょうだい支援に焦点をあてた研究も進められ、きょうだい自身は保護者が思っているよりも保護者からのサポートを受けていないと感じていることや保護者自身、きょうだいとのかかわり方について悩んでいるという現状が指摘されている^{1,2,5,14)}。

きょうだいと保護者の置かれている現状に関して、ダウン症のきょうだいを対象とした嶋村・岩元（2014）の先行研究では「きょうだいの気持ちや考えを尊重しているという養育態度の親に対し、きょうだいも親から自分の気持ちや考えを尊重してもらっていると感じていることが、きょうだいの生活を充実させている」ことを明らかにし、きょうだいへの望ましい親の養育態度がきょうだいの心理的安定をもたらしている可能性を示唆している。また、柳澤（2005）と川谷（2008）は、さまざまな障がいの種類の中でも自閉症児と暮らすきょうだいへの支援の必要性を述べている。これらのことから、本研究は、自閉症児と暮らすきょうだいへの家庭内における支援、その中でも、きょうだいへの親の心理的サポートは生活充実感に影響を与えているのか、さらに父親と母親に対してきょうだいの望む親のかかわり方にどのような違いがあるのかを明らかにすることによって、今後の家庭におけるきょうだい支援のあり方を検討することを目的とし、特に、以下の仮説について検証するものである。仮説1「きょうだいが親の心理的サポートを感じるほどきょうだいの生活充実感が高い」、仮説2「父親と母親とでは求める心理的サポートは異なる」である。

2. 方法

1) 調査対象

自閉症児のきょうだい50名を対象に調査を行い、有効回答者数は44名(88%)であり、男は17名(39%)、女は27名(61%)であった。きょうだいの平均年齢は15.2歳（range 8歳～28歳）であった。出生順は自閉症児よりも年上のきょうだいが27名(61%)、年下のきょうだいが17名(39%)であった。自閉症

表1 きょうだいの概要

	A大学	B大学	C療育機関	その他	合計(%)
人数	16	13	7	8	44 (88)
平均年齢	10.9	16.0	16.4	21.1	15.2
男	6	4	3	4	17 (39%)
女	10	9	4	4	27 (61%)
年上きょうだい	9	8	5	5	27 (61%)
年下きょうだい	7	5	2	3	17 (39%)

児の障がいの程度は軽度14名(32%)、中度17名(39%)、重度13名(29%)である(表1)。

2) 調査期間 2014年9月～11月

3) 調査手続き

主にA大学の自閉症児のきょうだい教室の参加者、B大学で筆者が学部時代に参加していた自閉症児の療育活動の参加者、ならびにC療育機関での療育活動の参加者に対して質問紙を直接配布し、郵送による回収を行った。

4) 質問内容

・フェイスシート

年齢、性別、職業または学年、家族構成(同居者)および年齢、自閉症児の性別、自閉症児の年齢、自閉症児の診断と障害の程度を記入してもらった。

・生活充実感尺度(以下、SEWS【Sense of Emotional Well-being Scale】と記す)

SEWSは、高橋・青木(2010)によって開発された幸福感をみるための尺度である。一因子(生活充実感)で構成されていて、児童期から使用可能である。各発達段階で回答できるよう質問項目の表現を一部補足を加え、自己記入式の質問紙で11項目から構成されており4件法で回答を行うものである。

・親の心理的サポート尺度(以下、PMSS【Parental Mental Support Scale】と記す)

PMSSは、吉川(1993)の質問紙内容から「親からの期待」「親への不満」「親への要望」の内容と阿部・神名(2011)による「悩み事・困り事の防止・予防に繋がる保護者のかかわり方」を参考にして、筆者が作成したものである。自己記入式の質問紙であり5件法で回答を行う。

本尺度では、親からのかかわり方における満足・不満の内容について対象になる「きょうだい」がそれぞれ自由記述にて記入する。なお、具体的な内容を記入してもらうことから、調査対象を小学校3年

生以上とする。また、「親の心理的サポート」に着目しているため、田村・伊藤（2011）の結果を参考にして対象者には小学校低学年以前の頃を振り返って記入してもらうこととした。なお、きょうだいが複数いる場合は最年長者を対象とした。

5) 分析方法

今回、PMSSについては標準化された既存の尺度がないため、筆者による自作のものである。したがって、尺度の作成には因子分析、信頼性と妥当性の検討を行った。

仮説の検証については、仮説1の検証では、まず最初に親の心理的サポートと生活充実感の関連性を検討するためにSEWSとPMSSの相関分析を行った。次にSEWSと相関が認められたPMSSの下位尺度の相関分析を行い、SEWSと相関が認められたPMSS及び下位尺度の因果関係を検討するために単回帰分析を行った。

仮説2の検証では、きょうだいが父親に求める心理的サポートと母親に求める心理的サポートについて検討を行うために、両群のPMSSの平均得点ならびに項目間の有意差検定（t検定）、さらに父親および母親の満足・不満なかわりに関する自由記

述内容のカテゴリー化を行った。

3. 結果

1) 父親 PMSS の作成

質問項目内の“キョウダイ”の表記は自閉症の兄弟姉妹のことを指す。

(1) 父親群の PMSS の因子分析および信頼性と妥当性の検証

表2に示すように、全20項目に対して因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行った結果、『心理的対応因子』、『要望への対応因子』、『平等な待遇因子』、『親からの期待因子』という4つの因子が抽出された。第1因子は項目番号②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑨, ⑬, ⑰の9項目の因子負荷量が高いことから『心理的対応因子』, 第2因子は項目番号⑩, ⑫, ⑬, ⑲の4項目の因子負荷量が高いことから『要望への対応因子』, 第3因子は項目番号①, ⑧, ⑭, ⑮の4項目の因子負荷量が高いことから『平等な待遇因子』, 第4因子は項目番号⑪, ⑱, ⑳の3項目の因子負荷量が高いことから『親からの期待因子』と、それぞれ命名した。また、内的整合性を検討するために各因子の α 係数を算出したところ、『心理

表2 父親群の PMSS の因子分析 (主因子法、プロマックス回転)

項目	因子負荷量			
	心理的対応	要望への対応	平等な待遇	親からの期待
②お父さんは「キョウダイ」について悩んでいることを聞いてくれた	1.121	-.068	-.125	.092
③お父さんは「キョウダイ」について不安に思っていることを取り除こうとしてくれた	1.027	-.030	-.030	.133
④お父さんは「キョウダイ」の事で辛い事があった時その辛い気持ちをわかってくれた	.956	.015	-.024	-.003
⑤お父さんは「キョウダイ」について嫌なことがあった時に話を聞いてくれた	.865	-.057	.082	-.027
⑥お父さんは「キョウダイ」の事で周囲の人とトラブルが起きた時は私を守ってくれた	.755	-.276	.288	-.171
⑬お父さんは自閉症について質問すると教えてくれた	.626	.268	-.245	-.270
⑦お父さんは「キョウダイ」の事で困っていると解決しようとしてくれた	.585	.273	.021	-.096
⑰お父さんは私と「キョウダイ」が大人になった時について話し合ってくれた	.504	.353	-.110	-.113
⑨お父さんは落ち込んでいる時に声をかけたり励ましたりしてくれた	.435	.263	.299	.186
⑬お父さんは「キョウダイ」のお世話をしているでも私のお願いを優先して聞いてくれた	-.056	.825	.082	-.187
⑫お父さんは「キョウダイ」よりも私を褒めてくれた	-.045	.680	-.025	.061
⑩お父さんは私がお母さんに甘えたい時に甘えさせてくれた	.133	.655	.176	.148
⑳お父さんの私へのかかわりに満足していた	.462	.469	.056	.113
⑭お父さんは「キョウダイ」と私を同じように接してくれた	-.234	.097	.835	-.029
⑧お父さんは私に嬉しい事があった時に一緒に喜んでくれた	.211	-.003	.799	.060
①お父さんは私と一緒に過ごす時間を作ってくれた	.134	-.040	.673	.034
⑮お父さんは私が「キョウダイ」について思っている気持ちを大切にしてくれた	.193	.319	.390	-.122
⑱お父さんは私が「キョウダイ」の世話をする事を期待していた	-.016	.162	-.262	.950
⑲お父さんは将来、私が「キョウダイ」の面倒を見る事を期待していた	.117	-.314	.117	.657
⑪お父さんは私に対して「キョウダイ」よりも厳しかった	-.135	.148	.300	.485
因子間相関	心理的対応	要望への対応	平等な待遇	親からの期待
	心理的対応	—	.694	.622
	要望への対応	—	.581	-.214
	平等な待遇		—	-.088
	親からの期待			—

表3 母親群のPMSSの因子分析(主因子法、プロマックス回転)

項目	因子負荷量			
	心理的対応	気持ちの寄り添い	要望への対応	親からの期待
⑤お母さんは「キョウダイ」について嫌なことがあった時に話を聞いてくれた	1.063	-.141	-.033	.026
②お母さんは「キョウダイ」について悩んでいることを聞いてくれた	.989	-.077	-.058	.166
⑰お母さんは私と「キョウダイ」が大人になった時について話し合ってくれた	.760	-.044	.117	-.030
③お母さんは「キョウダイ」について不安に思っていることを取り除こうとしてくれた	.734	.100	.073	.073
⑮お母さんは私が「キョウダイ」について思っている気持ちを大切にしてくれた	.641	.427	-.189	-.096
④お母さんは「キョウダイ」の事で辛い事があった時その辛い気持ちをわかってくれた	.601	.431	-.158	-.052
⑦お母さんは「キョウダイ」の事で困っていると解決しようとしてくれた	.535	.177	.111	-.129
⑯お母さんは自閉症について質問すると教えてくれた	.535	.282	.031	.048
⑫お母さんは「キョウダイ」よりも私を褒めてくれた	.448	-.236	.379	-.185
①お母さんは私と一緒に過ごす時間を作ってくれた	.446	.293	.099	.159
⑭お母さんは「キョウダイ」と私を同じように接してくれた	.279	.031	.123	.026
⑳お母さんの私へのかかわりに満足していた	-.072	.807	-.030	-.161
⑧お母さんは私に嬉しい事があった時に一緒に喜んでくれた	.321	.520	.178	.005
⑨お母さんは落ち込んでいる時に声をかけたり励ましたりしてくれた	.422	.499	.065	-.020
⑩お母さんは私がお父さんに甘えたい時に甘えさせてくれた	.053	.400	.279	.060
⑬お母さんは「キョウダイ」のお世話をしているでも私の願いを優先して聞いてくれた	-.132	.190	.764	.080
⑥お母さんは「キョウダイ」の事で周囲の人とトラブルが起きた時は私を守ってくれた	.243	-.070	.722	-.053
⑱お母さんは将来、私が「キョウダイ」の面倒を見る事を期待していた	.189	-.119	-.087	.995
⑱お母さんは私が「キョウダイ」の世話をする事を期待していた	-.245	.106	.105	.829
⑪お母さんは私に対して「キョウダイ」よりも厳しかった	.209	-.231	.005	.412

因子間相関	心理的対応	気持ちの寄り添い	要望への対応	親からの期待
心理的対応	—	.637	.536	-.178
気持ちの寄り添い		—	.391	-.016
要望への対応			—	-.051
親からの期待				—

的対応因子』は $\alpha = .954$, 『要望への対応因子』は $\alpha = .855$, 『平等な待遇因子』は $\alpha = .856$, 『親からの期待因子』は $\alpha = .679$ となり, 十分な信頼性が認められた。尺度全体の信頼性および妥当性についてはCronbachの α 係数は.924, KMOによる妥当性は.816であり, 信頼性と妥当性が認められた。

(2) 母親群のPMSSの因子分析および信頼性と妥当性の検証

表3に示すように, 全20項目に対して因子分析(主因子法, プロマックス回転)を行った結果, 『心理的対応因子』, 『気持ちの寄り添い因子』, 『要望への対応因子』, 『親からの期待因子』という4つの因子が抽出された。第1因子は項目番号①, ②, ③, ④, ⑤, ⑦, ⑫, ⑭, ⑮, ⑯, ⑰, ⑱11項目の因子負荷量が高いことから『心理的対応因子』, 第2因子は項目番号⑧, ⑨, ⑩, ⑳の4項目の因子負荷量が高いことから『気持ちの寄り添い因子』, 第3因子は項目番号⑥, ⑬の2項目の因子負荷量が高いことから『要望への対応因子』, 第4因子は項目番号⑪, ⑱の3項目の因子負荷量が高いことから『親からの期待因子』と, それぞれ命名した。また, 内的整合性を検討するために各因子の α 係数を算出したとこ

ろ, 『心理的対応因子』は $\alpha = .928$, 『気持ちへの寄り添い因子』は $\alpha = .811$, 『要望への対応因子』は $\alpha = .773$, 『親からの期待因子』は $\alpha = .748$ となり, 十分な信頼性が認められた。尺度全体の信頼性および妥当性についてはCronbachの α 係数は.901, KMOによる妥当性は.822であり, 信頼性と妥当性が認められた。

2) 仮説1および仮説2の検証

(1) 仮説1の検証

i) SEWSの分析

SEWSの項目別の得点の違いを探るため, 平均

表4 SEWSの平均

項目内容	M	SD
②学校(職場)は楽しい	3.32	0.85
④精神的に楽な気分である	3.18	0.86
⑤自分の好きなことがやれていると感じる	3.16	0.90
①生活がすごく楽しいと感じる	3.11	0.80
③自分はこのびのびと生きていると感じる	3.11	0.83
⑨満足感がもてない(逆転項目)	3.05	0.88
⑥わだかまりがなくスカッとしている	3.02	0.87
⑩心から楽しいと思える日がない(逆転項目)	2.98	0.94
⑪家族といっしょにいると楽しい	2.95	1.09
⑧仲間と力をあわせて1つの目標に向かってがんばる	2.93	0.96
⑦充実感を感じる	2.86	1.01

値と標準偏差を算出した。その結果は表4に示すとおりである。項目番号②が最も平均得点が高く、項目番号⑦が最も平均得点が低かった。

ii) SEWSとPMSSの相関分析

SEWSと父親群、母親群のPMSSの関連を探るため、相関分析(Pearsonの累積相関係数)を行った。その結果は表5に示すとおりである。SEWSと父親群のPMSSとの間には相関は認められなかったが($r=.224$, n.s), SEWSと母親群のPMSSでは弱い正の相関が認められた($r=.300$, $p<.05$)。

表5 SEWSとPMSSの相関分析

	父親群のPMSS	母親のPMSS
SEWS	.224n.s	.300*

* $p<.05$

iii) SEWSと母親群のPMSSの下位尺度の相関分析
SEWSと母親群のPMSSの間に弱い正の相関が認められたことから、SEWSと母親群のPMSSの下位尺度との関連を探るため、相関分析(Pearsonの累積相関係数)を行った。その結果は表6に示すとおりである。SEWSと『心理的対応因子』の間に弱い正の相関が認められたが($r=.371$, $p<.05$)、他の因子とは相関が認められなかった。

表6 SEWSと母親群のPMSSの下位尺度の相関分析

	心理的対応	親からの期待	要望への対応	気持ちへの寄り添い
SEWS	.371*	-.172n.s	.062n.s	.297n.s

* $p<.05$

iv) SEWSと母親群のPMSSの単回帰分析

SEWSと母親群のPMSSの間に弱い正の相関が認められたことから、因果関係について探るため、SEWSを目的変数、母親群のPMSSを説明変数として単回帰分析(線型、強制投入法)を行った。その結果は表7に示すとおりである。 $R^2=.090$ ($F_{(1,42)}=4.149$, $p<.05$)であり、母親群のPMSSの標準回帰係数は.300 ($p<.05$)と有意であった。このことからSEWSと母親群のPMSSには因果関係があることが示唆された。

表7 SEWSを目的変数とした単回帰分析

	標準回帰係数
PMSS	.300*
決定係数	.090

* $p<.05$

v) SEWSと母親のPMSS下位尺度の単回帰分析
SEWSと『心理的対応因子』の間に弱い正の相関が認められたことから、因果関係について探るため、SEWSを目的変数、『心理的対応因子』を説明変数として単回帰分析(線型、強制投入法)を行った。その結果は表8に示すとおりである。 $R^2=.138$ ($F_{(1,42)}=6.701$)であり、母親群のPMSSの標準回帰係数は.371 ($p<.05$)と有意であった。このことからSEWSと『心理的対応因子』には因果関係があることが示唆された。

表8 SEWSを目的変数とした単回帰分析

	標準回帰係数
心理的対応	.371*
決定係数	.138

* $p<.05$

(2) 仮説2の検証

i) 父親群と母親群におけるPMSSの比較(t検定)

父親群と母親群のPMSSの平均得点の差を探るために、対応のあるt検定を行った。その結果は表9に示すとおりである。1%水準で有意な差が認められた($t=4.50$, $df=43$, $p<.01$)。平均得点を見ると、母親群のPMSSの平均得点が父親群のPMSSの平均得点よりも高かった。両尺度の得点については65点以下を低得点群、66点以上を高得点群としていることから、父親の平均得点は62.09点、母親の平均得点は72.11点となっていて、きょうだいは父親よりも母親の方に心理面のサポートをより多く受けてきたと感じていることが推測される。

表9 父親群・母親群のPMSSのt検定

	M	SD	t値
父親群のPMSS	62.09	17.15	4.50**
母親群のPMSS	72.11	13.49	

** $p<.01$

ii) 父親群・母親群のPMSSの項目別比較(t検定)

表10は項目ごとの平均得点の差を探るため、尺度の項目ごとに対応のあるt検定を行った結果である。

項目番号②「「キョウダイ」について悩んでいることを聞いてくれた」($t=5.03$, $df=43$, $p<.01$),

項目番号③「「キョウダイ」について不安に思っていることを取り除こうとしてくれた」($t=4.72$, $df=43$, $p<.01$),

項目番号④「「キョウダイ」の事で辛い事があった時その辛い気持ちをわかってくれた」($t=4.28$,

表10 父親群・母親群のPMSSの項目別t検定

項目	尺度	M	SD	t 値
①私と一緒に過ごす時間を作ってくれた	父親	3.84	1.18	1.83ns
	母親	4.20	.98	
②「キョウダイ」について悩んでいることを聞いてくれた	父親	2.86	1.31	5.03**
	母親	3.82	1.17	
③「キョウダイ」について不安に思っていることを取り除こうとしてくれた	父親	2.84	1.26	4.72**
	母親	3.68	1.18	
④「キョウダイ」の事で辛い事があった時その辛い気持ちをわかってくれた	父親	2.86	1.31	4.28**
	母親	3.66	1.06	
⑤「キョウダイ」について嫌なことがあった時に話を聞いてくれた	父親	2.89	1.28	4.01**
	母親	3.70	4.40	
⑥「キョウダイ」の事で私が友達や周りの人とトラブルが起きた時は私を守ってくれた	父親	2.84	1.29	2.07*
	母親	3.20	1.11	
⑦「キョウダイ」の事で困っていると解決しようとしてくれた	父親	2.86	1.32	4.19**
	母親	3.70	1.15	
⑧私に嬉しい事があった時に一緒に喜んでくれた	父親	3.91	1.40	2.19*
	母親	4.30	1.03	
⑨落ち込んでいる時に声をかけたり励ましたりしてくれた	父親	3.36	1.37	3.01**
	母親	4.00	1.08	
⑩私がお父さん（お母さん）に甘えたい時に甘えさせてくれた	父親	3.30	1.50	1.34ns
	母親	3.52	1.30	
⑪私に対して「キョウダイ」よりも厳しかった	父親	2.75	1.53	1.51ns
	母親	3.09	1.29	
⑫「キョウダイ」よりも私を褒めてくれた	父親	2.73	1.28	1.04ns
	母親	2.89	.97	
⑬お願いすると「キョウダイ」のお世話をしている私の願いを聞いてくれた	父親	3.09	1.16	.65ns
	母親	3.23	1.16	
⑭「キョウダイ」と私を同じように接してくれた	父親	3.64	1.37	.15ns
	母親	3.66	1.18	
⑮私が「キョウダイ」について思っている気持ちを大切にしてくれた	父親	3.36	1.31	3.16**
	母親	3.84	1.06	
⑯自閉症について質問すると教えてくれた	父親	2.91	1.38	6.17**
	母親	4.32	.96	
⑰私と「キョウダイ」が大人になった時について話し合ってくれた	父親	2.84	1.48	4.22**
	母親	3.70	1.19	
⑱私が「キョウダイ」の世話をする事を期待していた	父親	2.70	1.34	.00ns
	母親	2.70	1.36	
⑲将来、私が「キョウダイ」の面倒を見る事を期待していた	父親	3.02	1.34	.48ns
	母親	2.95	1.36	
⑳お父さん（お母さん）の私へのかかわりに満足していた	父親	3.48	1.36	2.57*
	母親	3.93	1.11	

** $p < .01$, * $p < .05$

$df = 43$, $p < .01$),

項目番号⑤ “「キョウダイ」について嫌なことがあった時に話を聞いてくれた” ($t = 4.01$, $df = 43$, $p < .01$),

項目番号⑦ “「キョウダイ」の事で困っていると解決しようとしてくれた” ($t = 4.19$, $df = 43$, $p < .01$),

項目番号⑨ “落ち込んでいる時に声をかけたり励ましたりしてくれた” ($t = 3.01$, $df = 43$, $p < .01$),

項目番号⑮ “私が「キョウダイ」について思っている気持ちを大切にしてくれた” ($t = 3.16$, $df = 43$, $p < .01$),

項目番号⑯ “自閉症について質問すると教えてく

れた” ($t = 6.17$, $df = 43$, $p < .01$),

項目番号⑰ “私と「キョウダイ」が大人になった時について話し合ってくれた” ($t = 4.22$, $df = 43$, $p < .01$) の9項目に1%水準で有意な差が認められた。

また、項目番号⑥ “「キョウダイ」の事で私が友達や周りの人とトラブルが起きた時は私を守ってくれた” ($t = 2.07$, $df = 43$, $p < .05$),

項目番号⑧ “私に嬉しい事があった時に一緒に喜んでくれた” ($t = 2.19$, $df = 43$, $p < .05$),

項目番号⑳ “お父さん（お母さん）の私へのかかわりに満足していた” の3項目に5%水準で有意差が認められた。そして、項目番号⑱、項目番号⑲以

外は母親群が父親群より高得点であった。

(3) 自由記述のカテゴリー化および分析

きょうだい児からみた父親・母親の満足な、あるいは不満足なかわり方について、それぞれ自由記述による回答を求めた。該当人数については複数の内容を記入している対象者もいたため、それを反映した人数を記載している。

i) 父親の満足なかわり方について

有効回答者数は44名中33名(77%)であった。表11に示すように、最も多かった回答は「二人で過ごす時間を作ってくれた」(7名, 25%), 「一緒に遊んでくれた」(7名, 25%)であった。次に「自閉症児についての話を聞いてくれた」(5名, 18%)などであり、その内容として自閉症児についての「悩み」「困っていること」「不満」の3つが挙げられた。その他「自閉症児との将来について話し合ってくれた」「自閉症について教えてくれたこと」などの記述がなされていた。

表11 父親のかかわり方での満足

自由記述内容	人数(%)
二人で過ごす時間を作ってくれた	7 (25)
一緒に遊んでくれた	7 (25)
特になし	7 (25)
自閉症児についての話を聞いてくれた	5 (18)
その他	2 (7)

ii) 父親の不満足なかわり方について

有効回答者数は44名中27名(61%)であった。表12に示すように、最も多かった回答は「特になし」(15名, 60%)であったが、「自閉症児よりも厳しくされたこと」(4名, 16%), 「自閉症児について理解していない」(2名, 8%)など少数ではあるが見逃せない回答があった。その他「自閉症児についての話をしてくれない」「自閉症児を優先している」などと記述されていた。

表12 父親のかかわり方での不満足

自由記述内容	人数(%)
特になし	15 (60)
自閉症児よりも厳しくされたこと	4 (16)
その他	4 (16)
自閉症児について理解していない	2 (8)

iii) 母親の満足なかわり方について

有効回答者数は44名中33名(75%)であった。表13に示すように、「自閉症児についての話を聞いてくれた」(8名, 22%), 「二人で過ごす時間を作ってくれた」(8名, 22%), 「自閉症児の存在に関係なく接してくれた」(5名, 14%)などの記述があった。その他「自閉症児のことを内緒にせず教えてくれた」「母の自分に対しての思いを話してくれた」などと報告された。

表13 母親のかかわり方での満足

自由記述内容	人数(%)
その他	12 (34)
自閉症児についての話を聞いてくれた	8 (22)
二人で過ごす時間を作ってくれた	8 (22)
自閉症児の存在に関係なく接してくれた	5 (14)
特になし	3 (8)

iv) 母親の不満足なかわり方について

有効回答者数は44名中26名(59%)であった。表14の通り、「自閉症児が優先されていた」(7名, 23%), 「自閉症児よりも厳しくされた」(6名, 19%), その他「自閉症児の世話が大変で会話してくれなかった」「母親が自閉症について理解をしていない」などが記述された。

表14 母親のかかわり方での不満足

自由記述内容	人数(%)
特になし	13 (42)
自閉症児が優先されていたこと	7 (23)
自閉症児よりも厳しくされたこと	6 (19)
その他	5 (16)

4. 考 察

1) 仮説の検証について

親による心理的サポートについての既存の尺度を参考にして、筆者独自の尺度としてPMSSを作成した。因子分析の結果、父親群と母親群それぞれに4因子が抽出された。両群で共通因子は、『心理的対応因子』『要望への対応因子』『親からの期待因子』であり、両群で異なっていた因子は、母親群の『気持ちの寄り添い因子』、父親群の『平等な待遇因子』であった。両群の共通因子と異なる因子の内容から、母親群は心理的サポートに関する因子、父親群はきょうだいへのかかわり方に関する因子が

多いことが示されていた。父親も母親もきょうだいに期待しているが、母親は期待していると同時にきょうだい児に対して心理面のサポートをより多くしていることが明らかとなった。

父親群と母親群でのこのような違いに関しては、親のきょうだい児に対する意識・支援の先行研究^{1,2,3)}によれば、「母親はきょうだいの気持ちに寄り添い大切にするといった心理的な対応をする傾向が推測されるが、父親は、現実的にどうすれば負担が減るのかといった論理的な思考をする傾向になりやすい」という報告と一致するものであった。

母親群のPMSSの項目別の平均値からみれば、母親は「きょうだいが抱えるつらい気持ちや悩みへの理解・受容・対応」という心理的面に焦点を当てたかかわり方をしていることが明らかとなり、SEWSとの相関も認められた。また、このような心理的サポートを心がけた母親のかかわり方は、嶋村・岩元(2014)のダウン症児のきょうだいに対する「きょうだいへの望ましい親の養育態度」とも符合するものであった。

一方で、きょうだい児は、「自閉症児の方が優先される」「自閉症児よりも厳しくされる」といった母親のかかわりに不満を感じているケースもあり、「意図的にきょうだいとの親密な時間を設けて、きょうだいと向き合い、気持ちを受容してほしい」という母親との親密なかかわりを求めていることが推測される。また、母親は、きょうだい児に対して、将来、自閉症児の面倒を見て欲しいという期待と同時に、心理面のサポートも心がけていることも明らかとなった。そして、きょうだい児もまた、母親からの心理面のサポートを感じ取っていることが、きょうだい児のSEWSにおける“社会生活の充実”や“精神面の充実”等の現在の生活の充実感をもたらしていることが示唆された(表3)(表5)(表7)。

父親に関しては、2002年の福岡県の小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査で、「子どもと過ごす時間の長さ、子どもの世話等に対して母親が父親を上回っている」と報告⁷⁾されている。また、阿部ら(2012)の障がいのある子のきょうだいに関する研究²⁾でも、「父親の存在の薄さや子育てへの参加の低さ」が報告されている。このことは、子育てにおいては、一般家庭と同様に、障がい児のいる家庭においても父親は子どもと関わる時間が短く、子育てへの介入も少ないことが予想され、父親と子どもの関係は希薄になりやすい現状を窺い

知ることができる。しかし、きょうだい児においては、父親からの「二人で過ごす時間を作る」「一緒に遊ぶ」「自閉症児についての話を聞く」という望ましいかわりに満足しているケースもある。そのようなことから、父親には、“きょうだい児との関係が希薄になっている父親群”と、限られた時間の中で、きょうだい児と親密な時間を共有し、きょうだい児の気持ちを受け止めるという“きょうだい児を満足させている父親群”の二群が存在することが推測される。

これらのことから、きょうだい児は、母親に対してと同様に、父親に対しても“きょうだい児との親密な時間を設け、きょうだい児の「不安・疑問の受容」「自閉症児との平等な対応」などを求めていると推測される。

きょうだい児が父親と母親に求めるかわりににおいて、“親密な時間の共有”が共通してきょうだい児に満足感を与えていると推測される。しかし、PMSSの項目番号⑩“私に対して「キョウダイ」よりも厳しかった”、項目番号⑪“「キョウダイ」よりも私を褒めてくれた”、項目番号⑫“私が「キョウダイ」の世話をする事を期待していた”、項目番号⑬“将来、私が「キョウダイ」の面倒を見る事を期待していた”の4項目において父親群と母親群の両群共に得点が低いことから、きょうだい児は、父親と母親の双方から「平等さ」や「自閉症児の世話への期待」に関しては心理的なサポートを受けていないと感じていることが明らかとなった。

また、自由記述内容からも、きょうだい児は、日常的に両親が自閉症児の世話をし、忙しそうにしている姿を目にし、自閉症児との待遇の不平等さを感じていることが窺えることから、きょうだい児は、両親に対して“もっと自分を見て欲しい”という思いを抱いていながらも自分の思いをなかなか言い出せない現状にあることが推察される。このことから、きょうだい児は両親に“自分へ関心に向けて欲しい”という欲求を“両親と親密な時間を共有できた”ことで“両親が自分に関心を示してくれた”という満足感につながるものと考えられる。

以上のことから、仮説1「きょうだい児が親の親密なかかわりを感じるほどきょうだい児の生活充実感が高い」は、父親に関しては棄却され、母親に関しては支持された。仮説2「父親と母親とでは求める親密なかかわり方は異なる」は支持されたと言えよう。

2) 親の心理的サポートと生活充実感との関連性について

自閉症児と共に暮らすきょうだい児は家庭内だけでなく家庭外でも自閉症児の存在が身近な場合が多く、学校生活など共に過ごす時間が長いほど自閉症児についての悩みや不安も多く抱えることになる。しかし、この悩みや不安を訴えるにしても、きょうだい児には訴える相手を選ばざるを得ないという現実がある。そこで、最も身近な存在である両親がその相談相手になりやすい。しかし、実際問題として、きょうだい児は両親に相談したくてもできないという実情が仮説2の結果から示唆された。

きょうだい児が親に求める心理的サポートにおいて、“親密な時間の共有”に父親と母親の双方に満足感を抱えていることが明らかとなった。“親密な時間の共有”は、きょうだい児にとって、普段から抱えている“自分に関心を向けて欲しい”という思いや、一人で抱え込んでしまいがちな悩みや不安を吐露するための重要なかわりと言えらる。この、親と一対一で過ごす“親密な時間の共有”は、きょうだい児の生活充実感をもたらす重要な役割を担っている要因と言えらる。

“親密な時間の共有”に関して、父親では、「自閉症児に対する疑問・不満・不安の受容」が求められているため、自閉症児の障がい特性や対応法を父親が理解しておく必要がある。また、父親は論理的な思考をしがちであるが、子どもへの心理的寄り添いを意識することによって、きょうだい児が父親との親密なかかわりを感じることができるようになり、きょうだい児の生活充実感を高めていくことに繋がるものと考えらる。

一方、母親に関しては、きょうだい児の生活充実感との関連も認められており、心理的サポートを心がけたかわりが、きょうだい児の社会生活や精神面の充実感をもたらしていることが示唆された。しかし、仮説2の結果から、“きょうだい児と向き合う”“気持ちの受容”という点では、きょうだい児は“不十分である”と感じており、“親密な時間の共有”では“きょうだい児の気持ちをどれだけ受容できているのか”を意識し、時には、“きょうだい児の母親に対する思いや感じていること”等についても確認することによって、きょうだい児の生活の心理的安定と充実感をもたらすことができるのではないだろうか。

3) きょうだい児が親に望むかわりについて

きょうだい児は父親と母親に共通して“親密な時間の共有”を求めていることが本研究で明らかとなった。この“親密な時間の共有”に関して、父親に対してきょうだい児は、父親ときょうだい児の関係性を深めると同時に、父親自身の自閉症への理解を求めている。一方、母親に対してきょうだい児はより一層の自身の気持ちの受容を求めており、この違いは父親と母親のきょうだい児と過ごす時間の違いからも生じるものであると推測された。

きょうだい児が父親に対し、自閉症の特性に対する理解を求めていることが示唆されたことに関して、“父親と子どもの関係が希薄になりやすい”という現状と、母親が育児の大部分を担っているという現状から、母親と子どもが共に過ごす時間が父親よりも長いということだけではなく、母親の生活が自閉症の障がい特性を配慮した生活であると推測され、このような母親の生活が母親の自閉症の同胞に対する理解を父親よりも深いものに行っていると考えらる。母親は、自閉症の障がい特性を配慮しながら生活する中で、自閉症児の障がい特性への対応方法を自ら見つけ出し、または専門機関の助言を通して身につけていく。そして、このような母親の生活は後に、きょうだい児が自閉症児に対する悩みや不安、疑問を抱いた時に、きょうだい児が納得できるような説明が可能となればきょうだい児の“自閉症”に対する理解が深まることに繋がるものと考えらる。このような父親と母親の自閉症児の子育ての介入の差から、きょうだい児は父親と母親の自閉症の同胞に対する理解度の違いや、父親の自閉症に対する理解不足を感じ取っていることが、父親と母親に望むかわりが異なった要因として推測される。

5. 今後の課題

本研究では、対象者数が限られていたために、きょうだい児の発達段階別や出生順位別、また、自閉症児の障がいの程度別の分析等を行うに至らなかった。また、今回得られた結果から、きょうだい児が求める親のかわり方について、今後、さらに質的研究等によって掘り下げていく必要やきょうだい児支援プログラムの効果についても検討する必要もあろう。

謝辞

今回の調査研究をするにあたり、アンケートに快

く協力して下さったきょうだいの皆さまに深くお礼申し上げます。

〈付記〉

本論文は、西九州大学大学院に提出した修士論文〈平成27年度〉に加筆、修正を加えたものである。

参考文献

- 1) 阿部美穂子, 神名晶子 (2011), 『障害のある子どものきょうだいを育てる保護者の悩み事・困り事に関する調査研究』, 富山大学人間発達科学部紀要, 6 (1), 63-72,
- 2) 阿部美穂子, 神名晶子 (2012), 『障害のある子どものきょうだいのインフォーマルサポートに関する調査研究』, 富山大学人間発達科学部紀要, 6 (2), 99-112,
- 3) 阿部美穂子, 太田千裕, 神名晶子, 石井郁子 (2013), 『障害のある子どものきょうだいを育てる親の子育て感の変容: 家族参加型支援セミナーの参加を通して』, 富山大学人間発達科学部紀要, 8 (1), 85-99,
- 4) 原瑞恵 (2013), 『障がい児とともに生活するきょうだいとの体験が母親にもたらす意味』, 岩手県立大学看護学部紀要, 15, 9-18,
- 5) 平川忠敏 (2004), 『自閉症のきょうだい教室』, 児童青年精神医学とその近接領域, 45(4), 372-379,
- 6) 川谷正男 (2008), 『6. 自閉症のきょうだい支援』, 小児科臨床, Vol. 61, No. 12,
- 7) 子育ておっしょい (2006), (福岡社会教育委員等有志の会), 『小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査』, 福岡県立社会教育総合センター,
- 8) 西村辨作 (2004), 『発達障害児・者のきょうだいの心理社会的な問題』, 児童青年精神医学とその近接領域, 45(4), 344-359,
- 9) 水内豊和, 芝木智美, 片岡美彩, 関理恵, 高緑千苗, 鶴見真理子, 水内明子 (2013), 『障害児のきょうだいに対する家族の意識: きょうだい、母親、父親の三者間の比較から』, 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要, 教育実践研究, 第7号, 115-120,
- 10) 嶋村泰代, 岩元澄子 (2014), 『思春期のダウン症きょうだい児の親の養育態度—同胞関係および生活充実感との関連—』, 久留米大学心理学研究, 第13号,
- 11) 高橋智子, 青木多寿子 (2010), 『児童期からの適応感を測定できる生活充実感尺度の開発—適応感研究の相互比較を可能にする尺度を目指して—』, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第一部, 第59号, 69-77,
- 12) 田村彩, 伊藤拓 (2011), 『知的障がいのある人のきょうだいの悩みと必要な支援』, 安田女子大学心理教育相談研究室, Vol. 10, 11-21,
- 13) 柳澤亜希子 (2005), 『自閉性障害児・者のきょうだいに対する家庭での支援のあり方』, 家族心理学研究, 第19巻, 第2号, 91-104,
- 14) 柳澤亜希子 (2007), 『障害児・者のきょうだいが抱える諸問題と支援のあり方』, 特殊教育研究, 45(1), 13-23,
- 15) 吉川かおり (1993), 『発達障害者のきょうだいの意識—親亡き後の発達障害者の生活と、きょうだいの抱える問題について—』, 発達障害研究, 第14巻, 第4号,